

## 現地検討会報告（革新的実証事業）

### 「北部九州における稲麦大豆多収品種と省力栽培技術を基軸とする大規模水田高度輪作体系の実証」 平成26年度現地検討会報告

佐賀県上峰町と福岡県みやま市で9月25日（木曜日）に現地実証試験の検討会を行いました。この事業では、九州沖縄農研、福岡県、佐賀県の試験研究機関および普及機関、4つのメーカーなどがコンソーシアムを形成し、上記の現地2カ所で平成26年度から2年間、水稻、大麦、大豆の栽培試験と生産物の品質評価などを行う予定です。新技術として、ベンガラモリブデン被覆種子、狭畦密植栽培、表層散播機、新品種として、水稻「たちはるか」、大豆「サチユタカA1号」、大麦「はるか二条」を導入し、生産コストを平成20年度の統計値対比で60%削減（水稻）するなど、大幅なコスト低減の実証を目標としています。

当日は、生産者約40名を含めた100名ほどの参加者が上峰町の水稻実証圃場前に集まり、研究代表者の挨拶および事業概要説明の後、試験担当者から個別に説明と質疑応答を行いました。その後バス4台と車に分乗して大豆圃場前に移動、上峰町での見学終了後はみやま市の水稻実証圃場前に移動し、その後大豆圃場前へ徒歩で移動し、終了後解散しました。

今年（2014年）の北部九州の夏は雨や曇りの多い天候でしたが、水稻「たちはるか」の生育は概ね順調でした。上峰町の大豆「サチユタカA1号」は他の慣行

栽培に比べて播種期が1ヶ月程度早いこともあり、良好な生育状況でした。参加者からは、みやま市の乾田直播栽培と展示した表層散播機に関する質問が多く出され、乾田直播に対する関心の高さが窺えました。

現地実証試験は来年度で終了する予定ですが、新技術、新品種の普及については、関係者と協力しながら、九州沖縄農研としてサポートを続けていきたいと考えています。

【水田作研究領域長 田坂 幸平】



水稻「たちはるか」実証圃場（福岡県みやま市）

### サトウキビの革新事業の中間検討会

平成25年度補正予算 攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「サトウキビの安定・多収栽培技術の実証と高バイオマス量サトウキビの生産性評価」に関する中間検討会議・現地見学会を9月11日と12日に久米島で開催し、約30名が参加しました。

検討会では、研究課題の進捗状況を報告して意見交換を行いました。本事業では、徳之島、与論島、沖縄本島、久米島での灌水効果の実証が一つの柱になっています。しかし、本年度は例年と異なり、比較的降雨が多かったので灌水効果について予想していたほど顕著な効果を確認できませんでした。

本事業のもう一つの柱は、多収性サトウキビの生産性評価です。灌水が難しい条件では不良環境に強い品種が必要になります。そこで、これまでに九州沖縄農業研究センターにおいて、種間交配などを活用して育成した高バイオマス量サトウキビの有望系統を南西諸島各地で春植えし、その生産性を確認しています。現在のところ、高バイオマス量サトウキビの初期生育が顕著であることが確認できています。

またサトウキビの繊維と圧搾効率の関係を明らかにすることも重要な課題になっています。検討会では、新しい装

置の導入予定が報告されました。また新技術の予測モデルでは、その狙いや方法が報告されました。

現地見学会は久米島の灌水試験圃場で行い、散水車で農業用水を圃場横の貯水地に運んでスプリンクラーで散水する仕組みや土壌水分センサー連動型制御弁と組合せた散水など、数パターンの灌水方法について意見交換を行いました。

来年度の現地検討会は鹿児島県徳之島を予定しています。

【作物開発・利用研究領域 樽本 祐助】



灌水試験実証圃場（沖縄県久米島）